統計解析

統計解析No.143

令和４(2022)年京都市の合計特殊出生率

この度、京都市における令和４（2022）年の期間合計特殊出生率（以下「合計特殊出生率」という。）を算出しましたので、その結果について紹介します。

１　京都市の合計特殊出生率

(1)　令和４（2022）年の合計特殊出生率

令和４（2022）年の合計特殊出生率は 1.15（前年比 0.02 ポイントの減少）。
出生数は 8,372 人で、前年比 395 人の減少。**（表－１参照）**

【表－１】　母の年齢（5 歳階級）別出生数、女性人口及び合計特殊出生率

母の年齢階級	出生数（人）		女性人口（人）		合計特殊出生率及び母の年齢階級別出生率	
	令和3年（2021）	令和4年（2022）	令和3年（2021）	令和4年（2022）	令和3年（2021）	令和4年（2022）
合　計	**8,767**	**8,372**	**277,729**	**271,199**	**1.17**	**1.15**
15～19歳	45	31	29,209	29,011	0.01	0.01
20～24歳	555	509	37,306	37,170	0.07	0.07
25～29歳	2,078	1,964	36,509	36,081	0.28	0.27
30～34歳	3,143	3,039	35,491	34,409	0.44	0.44
35～39歳	2,320	2,199	39,532	38,248	0.29	0.29
40～44歳	608	602	44,622	43,114	0.07	0.07
45～49歳	18	28	55,060	53,166	0.00	0.00

注）母の年齢が 15 歳未満の場合、15～19 歳に、50 歳以上の場合、45～49 歳に合算している。
注）合計特殊出生率は小数点第３位を四捨五入しているので、総数と年齢５歳階級別の合計が一致しない場合がある。

＜合計特殊出生率とは＞

合計特殊出生率は、１人の女性が一生に生む子供の数を表す数値です。本来は、同一年生まれ（世代：コーホート）の女性の、15歳から49歳までの各年齢の出生率を積み上げたもの（コーホート合計特殊出生率）が正確な数字となりますが、この方法では、ある一つの世代の合計特殊出生率を見ようとした場合に、その世代が50歳になるまで数値が得られないという問題があります。

このため、特定期間（1年間）の出生状況に着目して、その年における各年齢（15歳から49歳まで）の女性の出生率を合計したもの（期間合計特殊出生率）が、現在は一般的に用いられています。本市で用いる合計特殊出生率も、この「期間合計特殊出生率」です。

なお、本市では算出に係る基礎資料として、出生数は厚生労働省「人口動態統計」の母の年齢（5 歳階級）別出生数を、女性人口は住民基本台帳の年齢（5 歳階級）別日本人女性人口（各年 10 月 1 日時点）を用いています。

(2) 京都市の合計特殊出生率の推移

本市の合計特殊出生率の過去20年間の推移をみると、平成17（2005）年に最小値1.11まで減少しましたが、その後徐々に増加し、平成27（2015）年、28（2016）年には1.30に達しました。その後は再び減少に転じています。**（表－２参照）**

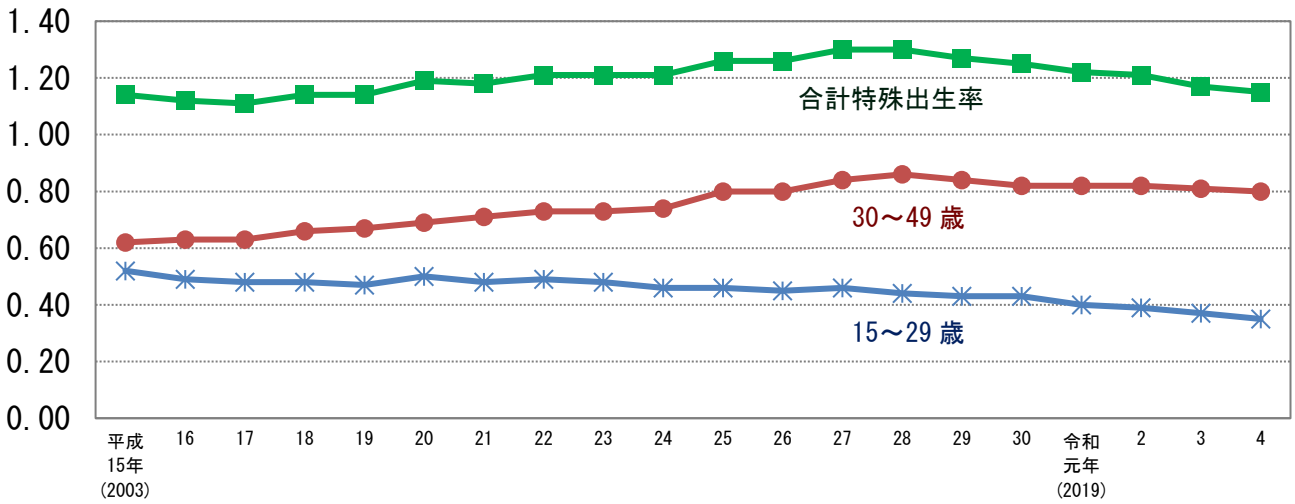
母の年齢階級別出生率の過去20年間の推移をみると、29歳以下の年齢層ではほぼ一貫して減少が続いています。他方、30歳以上の年齢層では平成28（2016）年までは増加傾向にありましたが、以後は減少傾向が続いています。**（図－１参照）**

【表－２】　合計特殊出生率及び母の年齢階級別出生率の推移

年次	合計特殊出生率	母の年齢階級別出生率						
		15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
15(2003)年	1.14	0.03	0.13	0.36	0.42	0.17	0.02	0.00
16(2004)年	1.12	0.02	0.12	0.35	0.41	0.19	0.03	0.00
17(2005)年	1.11	0.02	0.12	0.34	0.41	0.19	0.03	0.00
18(2006)年	1.14	0.02	0.13	0.33	0.43	0.20	0.03	0.00
19(2007)年	1.14	0.02	0.12	0.33	0.43	0.21	0.03	0.00
20(2008)年	1.19	0.02	0.14	0.34	0.43	0.22	0.04	0.00
21(2009)年	1.18	0.02	0.13	0.33	0.44	0.23	0.04	0.00
22(2010)年	1.21	0.02	0.12	0.34	0.44	0.24	0.05	0.00
23(2011)年	1.21	0.02	0.11	0.34	0.44	0.24	0.05	0.00
24(2012)年	1.21	0.02	0.10	0.34	0.44	0.25	0.05	0.00
25(2013)年	1.26	0.02	0.11	0.33	0.47	0.27	0.06	0.00
26(2014)年	1.26	0.02	0.10	0.33	0.47	0.28	0.06	0.00
27(2015)年	1.30	0.02	0.11	0.34	0.49	0.28	0.06	0.00
28(2016)年	1.30	0.02	0.10	0.32	0.48	0.31	0.06	0.00
29(2017)年	1.27	0.01	0.09	0.32	0.48	0.30	0.06	0.00
30(2018)年	1.25	0.02	0.10	0.32	0.46	0.29	0.06	0.00
令和元(2019)年	1.22	0.01	0.09	0.30	0.46	0.29	0.07	0.00
2(2020)年	1.21	0.01	0.08	0.30	0.45	0.30	0.07	0.00
3(2021)年	1.17	0.01	0.07	0.28	0.44	0.29	0.07	0.00
4(2022)年	**1.15**	0.01	0.07	0.27	0.44	0.29	0.07	0.00

注）合計特殊出生率は小数点第３位を四捨五入しているので、総数と年齢５歳階級別の合計が一致しない場合がある。

【図－１】　合計特殊出生率及び母の年齢階級別出生率の推移



２　行政区別の合計特殊出生率

(1) 行政区別の合計特殊出生率の概要及び推移

西京区（1.29）、伏見区（1.27）、右京区（1.25）、山科区（1.25）、南区（1.22）で京都市全体を上回る。また、令和３（2021）年と比べて、右京区、中京区、山科区で増加。（**表－３参照**）

【表－３】　行政区別合計特殊出生率の推移

年次	市計	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
15(2003)年	1.14	1.02	0.83	1.01	0.92	0.73	1.22	1.03	1.39	1.18	1.26	1.29
16(2004)年	1.12	1.03	0.89	0.98	0.84	0.66	1.24	1.00	1.32	1.17	1.25	1.25
17(2005)年	1.11	1.05	0.90	1.01	0.93	0.69	1.15	0.95	1.38	1.18	1.25	1.23
18(2006)年	1.14	1.10	0.90	1.04	0.87	0.79	1.20	1.05	1.33	1.19	1.28	1.28
19(2007)年	1.14	1.13	0.84	1.07	0.92	0.84	1.22	0.99	1.36	1.18	1.24	1.26
20(2008)年	1.19	1.15	0.99	1.11	0.98	0.69	1.24	1.00	1.48	1.23	1.34	1.31
21(2009)年	1.18	1.11	0.92	1.16	0.94	0.79	1.25	0.93	1.39	1.23	1.31	1.33
22(2010)年	1.21	1.13	1.02	1.14	1.01	0.82	1.31	1.00	1.42	1.27	1.33	1.35
23(2011)年	1.21	1.11	1.03	1.16	0.97	0.94	1.37	1.06	1.42	1.23	1.26	1.34
24(2012)年	1.21	1.12	1.01	1.10	0.96	0.77	1.35	1.00	1.48	1.30	1.36	1.29
25(2013)年	1.26	1.21	1.07	1.28	1.06	1.02	1.29	0.99	1.46	1.32	1.45	1.32
26(2014)年	1.26	1.21	1.03	1.28	1.05	0.88	1.38	1.03	1.48	1.30	1.39	1.33
27(2015)年	1.30	1.32	1.04	1.22	1.17	1.07	1.38	1.01	1.49	1.33	1.46	1.39
28(2016)年	1.30	1.26	1.09	1.28	1.01	0.98	1.42	1.06	1.55	1.37	1.53	1.36
29(2017)年	1.27	1.19	1.00	1.26	1.10	0.92	1.30	1.06	1.50	1.27	1.47	1.37
30(2018)年	1.25	1.19	1.01	1.24	1.08	0.81	1.29	1.05	1.43	1.32	1.46	1.34
令和元(2019)年	1.22	1.16	0.94	1.15	1.02	0.80	1.27	0.90	1.49	1.25	1.39	1.38
2(2020)年	1.21	1.20	0.86	1.16	0.99	0.80	1.33	0.97	1.37	1.29	1.40	1.32
3(2021)年	1.17	1.17	0.88	1.20	0.93	0.82	1.23	0.91	1.42	1.18	1.31	1.30
4(2022)年	**1.15**	**1.11**	**0.86**	**1.11**	**0.97**	**0.74**	**1.25**	**0.90**	**1.22**	**1.25**	**1.29**	**1.27**

注）旧京北町編入（平成１７（2005）年４月）以前の値は、合併前の市域で算出している。

(2) 行政区別、母の年齢（5歳階級）別出生率

母の年齢階級別の出生率を行政区ごとにみると、全行政区で、母の年齢30～34歳の区分が最も高いポイントとなりました。最大値は西京区の30～34歳の区分で0.49でした。（**表－４参照**）

【表－４】　行政区別、母の年齢（5歳階級）別合計特殊出生率

母の年齢階級	市計	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見	最大値と最小値の差
令和４年計	**1.15**	**1.11**	**0.86**	**1.11**	**0.97**	**0.74**	**1.25**	**0.90**	**1.22**	**1.25**	**1.29**	**1.27**	**0.55**
15 ～ 19 歳	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01
20 ～ 24 歳	0.07	0.04	0.03	0.03	0.02	0.04	0.09	0.05	0.08	0.06	0.09	0.12	0.10
25 ～ 29 歳	0.27	0.24	0.16	0.20	0.20	0.13	0.35	0.16	0.31	0.34	0.33	0.31	0.22
30 ～ 34 歳	0.44	0.43	0.38	0.48	0.40	0.29	0.47	0.32	0.43	0.48	0.49	0.47	0.20
35 ～ 39 歳	0.29	0.32	0.23	0.32	0.26	0.22	0.26	0.28	0.31	0.29	0.30	0.30	0.10
40 ～ 44 歳	0.07	0.08	0.06	0.07	0.09	0.06	0.06	0.09	0.08	0.07	0.06	0.06	0.03
45 ～ 49 歳	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01

注）合計特殊出生率は小数点第３位を四捨五入しているので、総数と年齢５歳階級別の合計が一致しない場合がある。

3　全国及び都道府県の状況

(1) 全国値及び京都府値

全国、京都府ともに、出生数は減少、合計特殊出生率は低下

令和４（2022）年の全国の合計特殊出生率（確定値）は1.26で前年比0.04ポイントの減少、京都府の合計特殊出生率（確定値）は1.18で前年比0.04ポイントの減少となりました。

また、出生数については全国で77万759人、京都府で1万5,068人となり、いずれも減少傾向が続いています。（表－５参照）

【表－５】　京都市、京都府及び全国の合計特殊出生率の推移

年次	出　生　数（人）　a)			合計特殊出生率　b) c)		
	京都市	京都府	全国	京都市 d)	京都府	全国
昭和45(1970)年	25,240	41,235	1,934,239	1.91	2.02	2.13
50(1975)年	22,457	39,921	1,901,440	1.66	1.81	1.91
55(1980)年	17,619	32,139	1,576,889	1.54	1.67	1.75
60(1985)年	15,643	28,479	1,431,577	1.55	1.68	1.76
平成元(1989)年	13,590	24,855	1,246,802	1.41	1.46	1.57
2(1990)年	13,386	24,209	1,221,585	1.38	1.48	1.54
3(1991)年	12,945	23,487	1,223,245	1.34	1.39	1.53
4(1992)年	13,113	23,838	1,208,989	1.34	1.38	1.50
5(1993)年	12,611	23,082	1,188,282	1.27	1.32	1.46
6(1994)年	13,352	24,245	1,238,328	1.33	1.37	1.50
7(1995)年	12,673	23,219	1,187,064	1.25	1.33	1.42
8(1996)年	13,204	24,023	1,206,555	1.27	1.30	1.43
9(1997)年	12,946	23,595	1,191,665	1.23	1.26	1.39
10(1998)年	13,144	24,312	1,203,147	1.23	1.26	1.38
11(1999)年	12,868	23,831	1,177,669	1.20	1.22	1.34
12(2000)年	13,002	23,997	1,190,547	1.21	1.28	1.36
13(2001)年	12,513	23,364	1,170,662	1.16	1.20	1.33
14(2002)年	12,386	22,859	1,153,855	1.15	1.17	1.32
15(2003)年	12,072	22,371	1,123,610	1.14	1.15	1.29
16(2004)年	11,764	22,066	1,110,721	1.12	1.14	1.29
17(2005)年	11,612	21,560	1,062,530	1.11	1.18	1.26
18(2006)年	11,845	22,100	1,092,674	1.14	1.19	1.32
19(2007)年	11,534	21,597	1,089,818	1.14	1.18	1.34
20(2008)年	11,789	21,842	1,091,156	1.19	1.22	1.37
21(2009)年	11,446	21,059	1,070,035	1.18	1.20	1.37
22(2010)年	11,556	21,234	1,071,304	1.21	1.28	1.39
23(2011)年	11,252	20,707	1,050,806	1.21	1.25	1.39
24(2012)年	11,050	20,111	1,037,231	1.21	1.23	1.41
25(2013)年	11,239	20,106	1,029,816	1.26	1.26	1.43
26(2014)年	10,978	19,583	1,003,539	1.26	1.24	1.42
27(2015)年	11,070	19,662	1,005,677	1.30	1.35	1.45
28(2016)年	10,921	19,327	976,978	1.30	1.34	1.44
29(2017)年	10,374	18,521	946,065	1.27	1.31	1.43
30(2018)年	9,989	17,909	918,400	1.25	1.29	1.42
令和元(2019)年	9,495	16,993	865,239	1.22	1.25	1.36
2(2020)年	9,251	16,440	840,835	1.21	1.26	1.33
3(2021)年	8,767	15,818	811,622	1.17	1.22	1.30
4(2022)年	**8,372**	**15,068**	**770,759**	**1.15**	**1.18**	**1.26**

a)　本表中の出生数は厚生労働省「人口動態統計」の母の年齢（５歳階級）別出生数（確定値）による。

b)　本表中の全国及び京都府の合計特殊出生率は、厚生労働省「人口動態統計」の確定値による。
なお、全国及び京都府における令和２年の合計特殊出生率は、令和３年６月に概数値の公表があったが、令和２年国勢調査の確定値公表に伴い本表の掲載値に修正されている。

c)　合計特殊出生率の算出には以下の女性人口の値を用いている。
京都市　住民基本台帳人口の日本人女性人口（昭和 60 年以前は国勢調査による日本人女性人口）
全　国　国勢調査実施年は国勢調査、国勢調査実施年以外は推計人口による日本人女性人口
京都府　国勢調査実施年は国勢調査、国勢調査実施年以外は、平成 26 年以前は推計人口による女性人口、平成 28 年以後は推計人口による日本人女性人口

d)　旧京北町編入（平成 17（2005）年４月）以前の値は、合併前の市域で算出している。

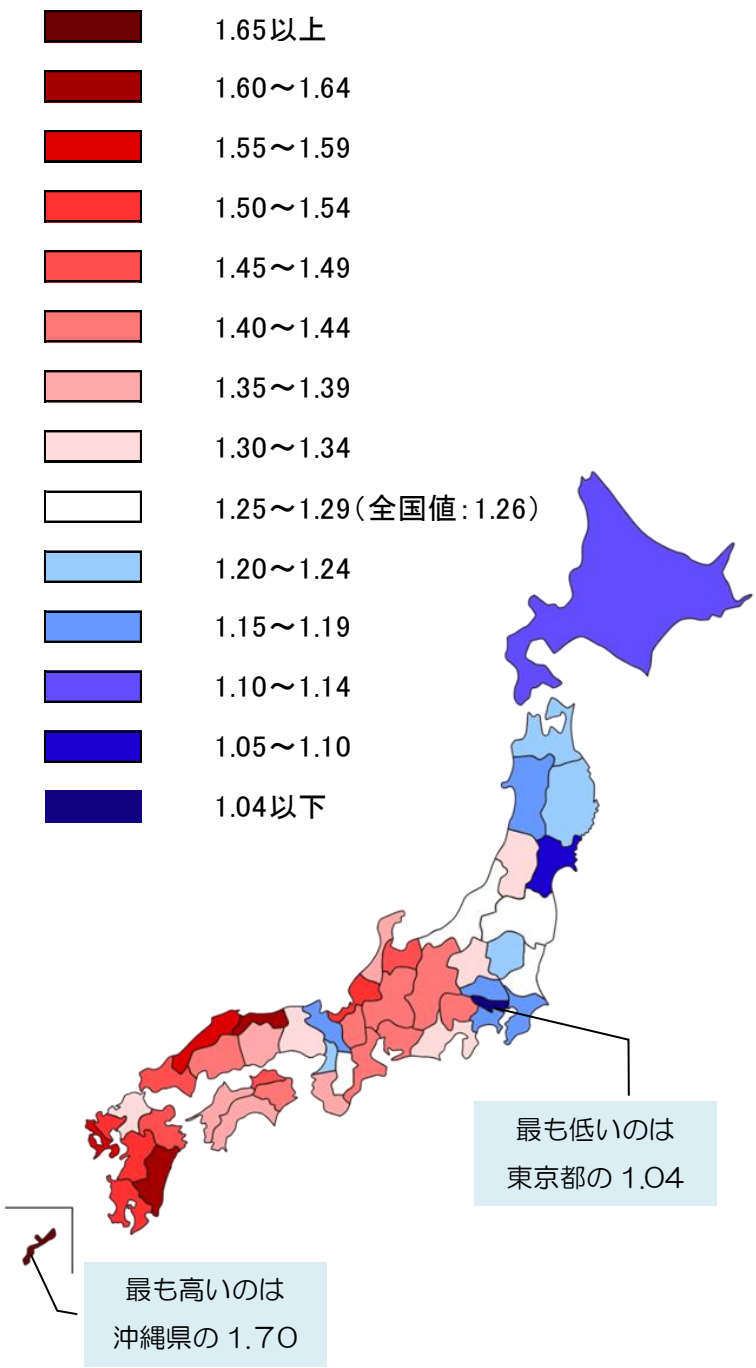
(2) 都道府県別合計特殊出生率

西日本で出生率が高い傾向

令和４（2022）年の合計特殊出生率（確定値）が最も高い都道府県は沖縄県で1.70、次いで宮崎県の1.63、鳥取県の1.60の順でした。一方、最も低いのは東京都で1.04、次いで宮城県の1.09、北海道の1.12でした。京都府は40番目（1.18）でした。

また、全国の合計特殊出生率の値である1.26を上回ったのは34県で、同率あるいは下回ったのは13都道府県でした。全体的には、西日本では比較的高く、東日本では比較的低い傾向にあります。**（表－６、図－２参照）**

【表－６】　都道府県別の状況

都道府県	合計特殊出生率	
	令和3年（2021）	令和4年（2022）
全国	1.30	1.26
北海道	1.20	1.12
青森県	1.31	1.24
岩手県	1.30	1.21
宮城県	1.15	1.09
秋田県	1.22	1.18
山形県	1.32	1.32
福島県	1.36	1.27
茨城県	1.30	1.27
栃木県	1.31	1.24
群馬県	1.35	1.32
埼玉県	1.22	1.17
千葉県	1.21	1.18
東京都	1.08	1.04
神奈川県	1.22	1.17
新潟県	1.32	1.27
富山県	1.42	1.46
石川県	1.38	1.38
福井県	1.57	1.50
山梨県	1.43	1.40
長野県	1.44	1.43
岐阜県	1.40	1.36
静岡県	1.36	1.33
愛知県	1.41	1.35
三重県	1.43	1.40
滋賀県	1.46	1.43
京都府	1.22	1.18
大阪府	1.27	1.22
兵庫県	1.36	1.31
奈良県	1.30	1.25
和歌山県	1.43	1.39
鳥取県	1.51	1.60
島根県	1.62	1.57
岡山県	1.45	1.39
広島県	1.42	1.40
山口県	1.49	1.47
徳島県	1.44	1.42
香川県	1.51	1.45
愛媛県	1.40	1.39
高知県	1.45	1.36
福岡県	1.37	1.33
佐賀県	1.56	1.53
長崎県	1.60	1.57
熊本県	1.59	1.52
大分県	1.54	1.49
宮崎県	1.64	1.63
鹿児島県	1.65	1.54
沖縄県	1.80	1.70
京都市（参考）	1.17	1.15

【図－２】　都道府県別の色分け地図